

佐保会兵庫県支部だより

第5号

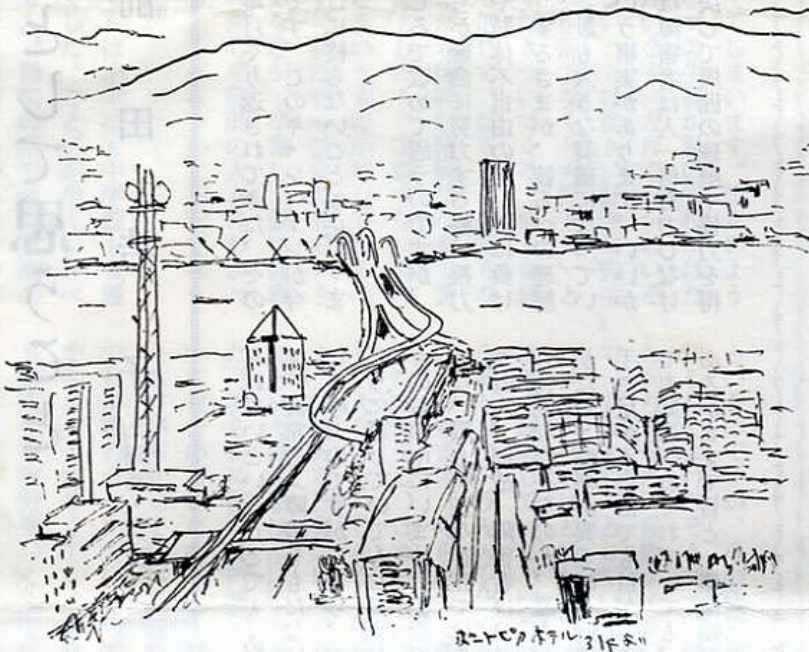
佐保会兵庫県支部事務局

神戸市北区緑町5-3-21
〒651-12 ☎(078)581-5727

昭和56年度・支部総会に出席して

印部 するゝこ(昭3・文)

昨年は公務の都合で欠席させていただいたので、本年こそと早くから予定を考え、やゝ緊張した気持ちで出席したことでした。数年来、役員の方々の格別のお骨折と、会員の皆様のご協力が実を結び、県の支部だよりの編集がつけられ、名簿の作成はもと



インフォメーション神戸所長 林 利三郎氏画

より、県会員七二七名のうち、80%の方々が会費を収められ、相互の連絡(県下各地)もすすめられているなど、佐保会としては、堅実な歩みふり、驚き且つ感謝申上げたことでした。

これまで大先輩の方々がご出席下さって、まだまだと思っていた自分の順位がまさに、大先輩と呼ばれ、大正十五年卒の方の次の席に明記されている名簿をみながら年月の流れの早さを痛感し、戦後の三十年など夢の夢としか思えない感慨に胸がつまりそうでした。

しかし、かつてはお若い方としてお迎えした方々は、今や成熟期を迎え、よい旅をして立派な記録を作成されたり、歌人として活躍されていたり、童話作家でふるさとを案内されたり(テレビ)、有名な灘生協の理事さんがいられたり、大学教授、助教授はもとより、本年は普通高校の教頭さんで、大の男子高校生の指導にあたり、更には兵庫県公立園長会の会長も佐保会の方で、本年は二つも全国大会の仕事を受けていられる様子でした。当日お聞きしただけでも、それぞれに立派なお働きをしていられ、ほんとにたのもしく誇りに感じました。奈良出身の方は、売込型でなく、むしろPRが下手といわれてきましたが、この兵庫県内の方々だけで、個々に持っていられるお力を結集すれば、何か創造することができるとは思いません。か、年甲斐もなく心を高ぶらせたことでした。

「佐保グループ文化サロン」を阪神間に誕生させて、衣食住の文化、教育文化等の創造に何か社会的役割を果し得たらどうだろう。

当日、経験豊かな佐保会員で神戸家庭裁判所の調停委員五人によって新しい相続法の解説や、寄与分についての説明など、意義ある学習があったが、女性の長い八十年余の人生をいかに生き、いかにデザインしてゆくか、八十年代の課題である事など思いめぐらし、佐保会の方々に大きい期待と夢を描かせていただいたことでした。

本年は国際障害者年として、完全参加を目標に活動や施策がすすめられているが、老化がすすみ、高齢者で不健康な場合まさに障害者である。できるだけ健康で社会参加ができる工夫をしなければならぬので、女性の長寿のよることと同時に、大きい社会的課題と考えたのである。

養護学校教師として思うこと

前田 浩子 (昭36・文史)

私が知恵遅れの子供たちの養護学校に勤めるようになって六年目になりました。その前は盲学校で十年。その盲学校の後半の生活で重複障害、つまり視覚障害と知恵遅れを合せ持つ生徒と出会い、盲学校の中でもさらに重度の学級というところで重複学級と称するクラスを担当しました。大学で東洋史を専攻していた私が、およそ畑ちがいの障害児教育にかかわることになったそもその始まりです。知恵遅れの子供たちは魅力的でした。もつとこの子供のことを知りたくなくて、現在の学校に移りました。

今年には国際障害者年ということで、障害者に関するさまざまなキャンペーンが行なわれています。テレビでも心打たれるルポやドキュメントがあります。逆にいえばマスコミが取材し、報道するに値する障害者の厳しい生活が、自立への努力が現に在るということ、障害者とその家族と、またその周囲の人々の根気強い訴えが、

長い年月くり返されてきた、その結果です。このキャンペーンが今年だけに終わらないことを祈ります。健康者(障害をもたない人)を呼ぶのですが、なら、ごくふつうに暮らしていてもおのずから人々の輪の中にいます。犯罪でも障害者が懸命に努力する姿、視力障害や肢体不自由の苦しみに負けず苦闘するさまが、彼らへの理解を促す最も大きな契機になっているという事実があります。いいかえれば障害者は人一倍努力しなければ決して周囲の理解や協力を得

られないということでもありません。健康者(障害をもたない人)を呼ぶのですが、なら、ごくふつうに暮らしていてもおのずから人々の輪の中にいます。犯罪でも障害者が懸命に努力する姿、視力障害や肢体不自由の苦しみに負けず苦闘するさまが、彼らへの理解を促す最も大きな契機になっているという事実があります。いいかえれば障害者は人一倍努力しなければ決して周囲の理解や協力を得

折にふれて

河村 良子 (昭6・文)

落椿皿に浮かべて春惜しむ

万燈の灯人波に届かざり

古雛の髪を撫で撫で祭りけり

菜種梅雨彦根の城は高からず

入れてもらえないのが、近頃改めて疑問に思えてなりません。この社会は、五体満足、知能優秀な人間だけで構成されているわけではないのです。私達をあるがままに社会の一員として受け入れてほしい。という障害者の願いが、すべての人の心に届いてほしいと思います。

話を私が直接かかわっている知恵遅れの人々の問題に移しましょう。

肢体不自由や視覚障害者などのように障害の部位が具体的に外からわかる、つまり顕在化している場合に比べて、身心障害者の中でも「心に障害がある」とされる場合の「障害」とはどういうものなのでしょう。精神障害者が精神病院に隔離され、今また刑法を改悪して保安処分の対象にされようとしているように、精神に障害があるとされると、それはもう人間社会ののけ者になることです。そこまではなくても精神薄弱者(今は私たちがこのことばを極力用いませんが)と名づけられたらやっばり人々とはちがう人間だという目でみられます。でも、少しもちがわぬのです。どちらがわぬいかを知ってもらうために、私の勤める養護学校高等部の生徒を二、三紹介してみます。

女性と法律 ①

相続について

(昭9・文 本村正子姉談)

旧法の家督相続を廃して、昭和二十二年から共同相続になっている。相続の対象は、宅地、建物、預貯金、書画、骨董、そして借金も含む。

遺産の分割には、指定相続と協議相続とがあり、後者の場合には相続人たちによる遺産分割協議書を作る。この協議がスムーズにいかないときは、家裁に申し立てると審判が下され判決文が作られる。尼崎の家裁の場合、一年間に扱う家事調停の三分の一以上をこの相続問題が占める。

法定相続分に関しては、五十五年九月に民法が改正されて、五十六年一月一日以降は配偶者が従来の三分の一から二分の一へと優遇されることになった。こうした背景には①子供の数が少なくなった②妻の平均寿命が長くなった③核家族化によって老女の一人暮らしがふえ、生活が困難になってきた——などがあげられる。

〇くんは一般の中学校の普通学級にいましたが、勉強ができず、進学する高校がないので養護学校の高等部に来ました。受験体制の下で、学業成績がその人間の位置を決めてしまう、現在の学校教育の枠の中で彼はすいぶん肩身の狭い思いをしてきたようですが、持ち前の純真で無垢な心は幸いそこなわれてはおらず、今は実に伸びのびとふるまっています。彼のやさしさや素直さは誰からも愛されていて、養護学校に来てよかったと言っています。でも〇君が養護学校にしか来るところがなかったのを私はとても残念に思っています。何故なら、彼の今一番の気がかりは、養護学校卒業生でも就職して、そしていつか結婚できるかな、ということだからです。

Kさんは、一般の中学校の養護学級からきました。数の計算は指を使ってでなければうまくできません。文章は書けるけれど、ひらがなばかりのごく幼い文章です。いつもまっすぐに相手の目をみつめてしゃべります。そして本当のことしか言いません。あまり本当のことなので時に相手を困らせます。くやしい時、目に涙をためて相手に向いますが、自分の気持ちをうまく言葉でいえないので思わず

蟬時雨一人遊びの独り言
一病を得て老骨の菊作り
渡米機の子を案じつつ菊を剪る
故里の萩芒植る月を待つ
大峽谷太古のままに水洒れて
着ぶくれて仁王の前の曆売り

手がでてしまいます。彼女のようなタイプの生徒が私の学校にはたくさんいます。友だちがかわいそうだといっちは泣き、好きな先生にはお世辞でなく「大好き」といって抱きついてくる。他人を無条件で信じて、疑うことを知らない。だから精神が薄弱だなんて言うのだとしたら、薄弱でない精神とはどういうものか推して知るべしです。私は彼や彼女たちのデリケートな心が、卒業し、仮に就職して、果して周囲の人々にわかってもらえるだろうかと不安でなりません。

Mくんは小学校も中学校も養護学校でした。ことばが全くしゃべれません。母親の話では幼稚園のころまでは単語をしゃべっていた

というのですが、その後、全く発語しなくなつたそうです。原因はわかりません。多動タイプの生徒で、少しもじつとしていません。しゃべれないけど話しかける言葉はよく理解していて、切れ長の目を動かして、うんうんとうなづいてみせます。叱られると悲しそうな表情をし、ほめるとなんともしないうれしそうな顔をします。彼がある日突然しゃべりだしたという夢を私は何回もみしました。明らかに彼には内言語（心の中に自分の言いたいことを持っている）があり、それが表情や動作でしか表わせないでいるのです。でもしゃべれなくても、彼は彼女の人生を充分楽しく生きていくとこの頃思うようになりました。

つまりは周囲の者が彼をどう受けとめるかということなのです。しゃべれないからダメ、数の計算ができないからダメなのではない、それなら私たちもできないことは山ほどあります。

私は〇くんやMくんが、あるがままの姿で受け入れられてほしいのです。何らかの原因で脳に器質的な障害があるのかもしれない。そのために数の計算ができなかったり、ことばがでなかったりするでしょう。でも心に障害があるのではないのです。障害どころか彼らの心は素直でやさしく、繊細な感受性を持っています。悪魔の心を持ち合わせていないだけです。たしかに自分の気持ちを表現するのは下手です。私達は彼らに自己を表現するでだてを教えることが仕事です。人の手を借りず生きていける力を身につけさせたいと思います。その子なりにたえず成長していつかはほしい。あるがままにこの子らを受け入れ共に成長していこうとする環境を何とか保障してやりたいと思います。来年三月の卒業にそなえて、今、私たちは彼らを受け入れてくれる企業や施設探しに大忙しです。

国際障害者年のスローガンである「完全参加と平等」が実現する社会を夢見ながら――。

しかし、配偶者優遇とはいっても、内縁の妻には相続権が全くないので、結婚したら直ちに婚姻届を出すことが女性の立場から強く望まれる。ところで、借金もマイナスの財産として相続の対象になるが、そのまま相続すると苛酷な場合には、相続人を守るために①限定相続（相続財産の範囲内で被相続人の債務を弁済する）②相続放棄（相続に関する権利、義務をすべて放棄する）の制度がある。これらの場合には、三カ月以内に居住地の家裁へ申し立てると、多大の借財を背負いこみ返済に苦しむケースを防ぐことができる。ただし子が親の相続放棄をした場合、次の相続順位者（甥や姪）に債務が回ることもあるので要注意。そのほか、財産をふやすのに寄与した人たち――妻や長男（農業、商業などの家業を手伝った場合）に関しては、遺産形成に役立ったとして、寄与分が認められている。昭和56年度佐保会兵庫県支部総会のさい、家裁調停委員をおつとめの有志数名のお話の中より抄録

婦人運動にそれほど理解があったとは思われない私の母が市川房枝氏と親交があったのは少し不思議なことと思われる。

朝日新聞の婦人記者として最初の人であった竹中繁氏（明9生）は、大正の初期即ち、平塚らいてう氏と協力して、市川氏が婦人解放運動をはじめた頃から、記者としてそれを見守った。種々な曲折の後、婦人参政権獲得に運動をしぼって、市川氏が「野中の一本杉」のあだ名で呼ばれるような立場で懸命に活動しているとき、いつも朝日の記者として誠実に支援した。その竹中氏に対して後年、市川氏は敬意と友情をもって報い、戦後に隠棲していた千葉県鶴舞から東京へ招待し、昔をなつかしむ多くの婦人運動家の会を催して、竹中氏を「夢のようだ」と喜ばせた。

竹中氏は、朝日の記者になる前の四年間、自分の母校である東京の女子学院（矢島掛子校長）の教師兼舎監であった。私の母はその頃、女子学院生として寄宿舎にいたので、明治、大正、昭和とそれ以後の長い年月を、結婚をしなかつた竹中氏と、家庭の問題につきつきつき当る私の母とは、案じあ

った。竹中氏は「この人は私の孫のようなものです」と私をひとに紹介することがあったのを覚えている。

竹中氏は昭和四十二年に九十三歳でなくなり、葬儀は婦選会館で市川氏によって行われた。市川氏にとつて、私の母は、遠慮深い竹中氏の、本当の望や、気持をひき

出せる人として、このことについての相棒であつたらしい。

富士山を愛し、富士のみえるところに眠る市川氏は、晩年は富士山のようにいよいよ高きいよいよ

美しかったが、「野中の一本杉」の頃の仲間をいつも大切に心の中にしまっていた。私にはそれが大きな魅力である。おそらく、どこか

かで裏切られ、失望し、いきちがいになげく場面があつたであろうその頃の仲間の方が、老後を頼り

少く、忘れられがちに過している状況を細かく把握して、それらの方たちに、毎年秋にはおもしろいお菓子を贈ることを例とされた。竹中氏にそがれたこまやかな心は、その一事例として同質のものと思われる。私は今、市川氏

市川房枝氏と私

香川敦子

（昭12・理）

に依頼されて、果さなかつた竹中繁に関する資料を整理している。私が母の娘としてのかかわりだ

けでなく、直接的に市川氏と接することが多くなつたのは、昭和四十九年「家庭科の男女共修をすす

める会」の運動に参加してからである。

私は、市川氏に家庭科という科目には関心がうすく、そうした技術もあまり得意ではなく、むしろ、家庭科不要論にかたむかれる

人という印象を漠然と持っていた。しかし、市川氏は、義務教

育、それにつづく高校の家庭科がどのように扱われ、どのような役

わりをもたせられているかに眼をむけると、真正面から取りくんで

決して名目だけの世話人代表ではなかつた。国会で、永井文部大

臣、大平総理大臣に女子の特性についての見解を質し、共修をすす

める会の代表者たちが担当の文部官僚に話しあうことを要求したと

き、担当者が応じることをしぶると、「国会議員の市川が要求して

も会わないか」とすこむことさえされた。すすめる会のささやかな

忘年会に出席して、現場をよく知っている世話人から、こまごまと

謙虚に現状をきき、調査の依頼や助言をされた。

市川氏にとつて、全国最高の得票による当選は満足なものであつ

たろうか。市川個人の後継者は不要と、わりきりながらも、あの高

齢でなお、先頭に立って引つ張らなければならぬ現状。タッチの

差で占領軍のおしつけではなく得た婦人参政権ではあるが、本質的には「たなぼた」であり、それ故

に市川氏の戦いの、反対陣営に利用されることはあつても、理解して共にたたかう婦人は常に少数派であること。現実の生活をみる眼

としての政治教育は全くといってよいほどなされないから、得米の

展望はくらくらすることなど、日暮れて道遠し、の感が深かつたと思われ

る。

市川氏は意識不明から回復して小康を得たとき、周囲の心配気な

顔に対して、「私が倒れたとき、あなたたち何を考えた？なかつた

は是非それがききたい」といわれたとき。

市川氏は家庭科を、具体的な政治教育のできる科目としてみたのではないだろうか、家庭科の共修

運動代表世話人としての熱意にそれが感じられる。教育課程の改訂

にかけて、その運動に邁進する若い仲間

に昔の婦選獲得の運動と同じ焰を感じ、先頭に立つことを引き受け、その市川氏の推進力が、

家庭科教育に実際にたずさわつてなやんできた仲間

にエネルギーを与え、その結果、目をみはるような運動が展開した。それにもかかわらずに敗北して、女子のみの家庭科という壁にはつきりと直面し

たとき、市川氏は「そんなに成果がすぐあがるものではないよ。上

出来だ」と評価した。こんな当然な主張がなぜ、ときおいたつ仲間

に、「私はこんな挫折の経験は百回もした」と市川氏は思われたのではなからうか。

家庭科教育にたずさわるものも多く、家庭科教員を養成することに係るものも多い、という立場だけ

でなく、女として生きてゆく宿命をもつ私たちとして、市川氏のこの面での活動と、その底にある婦人の地位の向上に一生を捧げないではいられなかつた使命観を、深く理解しなければならぬと考

える。

神戸の 国際交流 会議場

日下初子

(大15・文)



神戸港の中に裏山をくずして築いた島の埋立てが終つてから、在京の長男、日下公人は約一年間、神戸市開発局の開発委員会に参加していました。ところが長女、吉田あこがこの国際会議場で、この九月九日、英国からゴールドスマス氏を招いて「身障者のための生活環境整備セミナー」を主催するということでした。この機会に出かけてみました。

ポートルライナーを「市民ひろば前」でおりて架橋をゆくと、右にポートルピアホテル、左がその会議場です。四階のホール、二百人用。馬蹄形に席あり、それをかこんではほぼ満席でした。女性は十人あまり。
ゴールドスマス氏は英国環境庁、運輸省、ロンドン障害者セ

ンターの顧問です。この道の世界的権威、また建築行政に於ける施策の推進者です。舞台の向うで左下に席をとり、通訳者と並んでいます。私はその対角はるかにうしろ入口の近くに席をとりました。この室内ではもっとも簡単な椅子ですが、かけ心地は上々でした。
講演のことはおだやかで美しい英語、声が小さくなっても低くてもメリハリがはつきり、ま近に向い合つて親しく聞くよかったです。よほど建物の音響効果があまくできていて、マイクの調子もよいのでしよう。
一時間の質疑応答、日本側からは英国の視覚障害者への物的配慮、また一般障害者への国家的方針は？など出しましたが、彼は建築士としては車椅子使用者

を授けることはできやすいが、視覚・聴覚その他の障害者にはまだあまりすることがない。中央政府は法令を作つたり、機器開発その他に資金を援助することなどはしないで、地方自治体の仕事となつてゐる。一人一人状況のちがいが多いため、これに対応するにはその方がよいと考えているなどと聞きました。
翌日の集会はメインホールで約七百名出席、盛会でした由。集まる人々は全国の研究職



(私は例外)、そして障害者のために知識と愛情を尽す善意の人々。このホールにふさわしく、皆様の動きは素朴でゼントルでした。尚この会議場をとりまくレセプションロビーは広く、階段もゆるやかで、よい雰囲気でした。
神戸はいい物を造りましたね。何でも東京でという傾向はだんだん改まるでしょう。

女性と法律

②

離婚について

(昭19・家 佐藤すなほ姉談)

昭和50年度に家裁へ申立のあった離婚調停の動機は八妻より▽①夫の暴力(38%) ②性格不一致(36%) ③異性関係(34%) ④生活費を渡さない(21%) ⑤酒(18%) ⑥夫より▽①性格不一致(56%) ②同居に応じない(27%) ③異性関係(23%) ④家族との不和(20%) ⑤家庭をかえりみない(17%) がベスト・ファイブとなつてゐる。

訴訟を起こせる「離婚原因」には①不貞②悪意の遺棄(金があるのに妻に生活費を渡さないことも含む) ③三年以上の生死不明④配偶者が強度の精神病で回復の見込みがないとき⑤そのほか婚姻を継続し難い重大な事由がある時——となつてゐる。近年は④や⑤の有責事由から、①②③と夫婦関係の既に破綻したものを救うべきだ、という方向へ変わつてきた。

離婚したさい、夫婦財産の清算という意味の他に、離婚

後の弱者の扶養として「財産分与」を請求できる。双方で話し合いがむずかしい場合、家裁で調停する。成立すると調書を作つてもらえる。これは裁判所の判決と同じ効力があり、強制執行もできる。
家裁を通さない場合は「執行受諾約款付」の公正証書を作つておく方が安心だろう。この「財産分与」の請求は、離婚後二年以内でないときないので注意を。

財産分与の標準は①家庭生活への妻(または夫)の貢献度②現在の夫と妻の財産状態③離婚に到つた双方の責任の内容(責任があれば慰謝料となる) ④結婚生活の期間——など、いろいろな条件により考慮される。強く離婚を求め(望む)側より「解決金」として支払われる事も多い。
離婚後は元の姓に戻るが、夫の姓を使いたい場合は、三カ月以内に市町村役場に届を出し、独立の戸籍を持つ。



病害公報情報



小泉 直子 (昭38・理植)

私は社会に於て優秀な先輩が、数多く活躍しておられる奈良女子大学を卒業した後、どういうわけか、医学部に入學し、激しい大学紛争が終りかけた昭和43年、一応机に向う学業を終える事となりました。国税を8年間も無駄使したのではないかという罪業感も手伝い、他の卒業生が最も敬遠する基礎医学の研究分野に入ろうと思いい、その中でも最も社会性の強い公衆衛生学教室に入局しました。当時は水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息と公害問題で教室は活気に満ち、忙しい毎日でした。連日マスコミはセンセーショナルに環境汚染問題を報じ、我が教室の教授にも、しばしばニュースの時間にテレビでお目にかかるという有様でした。私は教室に入って、教授より「カドミウムをやってみては？」と一言テーマの指示を受けただけで、暗中模索しながら実験を始めました。その頃は、ただ真面目に実験計画を立て、その結果報告を学会でするだけでしたが、その結果報告の受け取り方が、良く言えば個人又はある集団の理念、悪く言えば視野の狭い非科学的理念によって、全く異ってくると思えませんでした。そして10年以上経って

て、これに大きな影響を与えたのがマスコミユニケーションであったとつくづく思われるのです。マスコミの報道者は、大衆の心理を熟知し、いかにもセンセーショナルな見出しで一般民衆を妄想気分へと発展させてしまうので、最近では学者の中にも、情報化社会に身を任せ、うたかたの名声を好む人が少なくありません。私は当時ある学会発表で、一流新聞に、イタイイタイ病の発見者と言われている萩野医師と激論を交し

たという記事が載せられた事があります。しかし事実は全く誤りであり、今考えても萩野医師との討論すら覚えが無い有様です。この経験から、報道というものがどの程度の信頼性を持っているのか疑問に思うようになりました。しかし、事実、一般人は今日、新聞、ラジオ、テレビから大部分自分の未知な分野の情報を得ているわけです。そしてそれから自分の考えを確立し、行動或は言動として表現しているものと思われま

す。自分に知識があり、経験も豊富な事に関しては、いかに情報が過剰に流れようと、確固として動揺せず、逆に批判的に、更には否定的な物の見方さえ生じてくる事は誰もが遭遇する事だと思えます。しかし自分が未知な事に関する情報は、鵜呑みにし、判断力を失ってしまい、ここに画一的な情報によって作られた一般大衆の観念と行動が出来上ってくると思われれるのです。この津波の様な力は、事実を無視し、一般社会を混乱に陥れることさえあり、過去のトイレットペーパー騒動や、ガソリン不足の事件が一つの例と言えらると思えます。経済機構を考えれば起り得るはずは無く、結果として値上りを招いただけなのです。この様に考えると情報も一種の公害であり、それにより生じてくる一般人の精神的不健康状態を、情報公害病と名付けても良いのではないかと思われるのです。

いにしては神々もまた争ひき聖職者教師いまま争ふか
怒り深く内にこもりて厨辺に鱸すずきの皮をしたたかに引く
言こと挙げもせず年を経て草莽の人と呼ばれむは何の誇りぞ
たましひの孤独を知らず少年に大志抱けとおとなら言ふ

身辺瑣事

田辺 幸子
(昭17・文)

私が教わった教授は、水俣病で患者側に立って弁護しましたが、カドミウムの問題については、その因果関係に対して常に否定的な見解を取ってきたため、変節した学者として非難されてきました。しかし一般の人がカドミウムについて、どれ程の知識があるのでしょうか。例えば、カドミウムは一



種の重金属であり、昔から土壌中に含まれている物質である事、口から入ったカドミウムは2〜5%しか吸収されず、大部分は腸管を素通りしてしまふ事、吸収されたカドミウムは尿から排泄される事、全国の鉱山のあるところでは、土壌中のカドミウム濃度が、イタイイタイ病発生地富山と同程度、或はそれ以上であっても、あのような症状を呈する患者さんは、一人も見出されない事、水俣病のように、カドミウムでは動物実験でイタイイタイ病が再現出来ない事、その他数多くのデータの事実を述べたとしても、過去の情報によって汚染された一般人には、イタイイタイ病の原因はカドミウムという固定観念をくつがえすことは出来ないのです。この原因としては、種々の情報が民衆の関心を捕え易い重金属の汚染問題のみを大々的に取り上げ、学問的データの報道には非常に消極的であったことが考えられます。それ

により、情報によって片寄った知識を吹入され、総合的判断力の低下状態を招いていると思われるのです。

それ故、情報提供者は市広い視野と深い知識を要求され、実際に報道する時は、民衆に与える重大な影響に対して責任を持って報じて欲しいと思うのです。

最近の他の例として、百日咳ワクチンの事故による記事が掲載されました。その結果、昭和49年には全国で百日咳患者数が393人、死亡者が0であったものが、世の母親の恐怖心から翌年の昭和50年の接種率は30%、昭和51年には18%に低下してしまつた結果、百日咳の患者が激増し始め、昭和53年には患者数9626人、死亡者32人となり、昭和54年のデータは更に増加した罹患者を報告しています。予防接種は本来、集団免疫が目的であり、自分の為にするのではないという根本概念が、記事を報道する側に無いため、1〜2件の事故を大々的に報道したのもと思われまふ。

伝染病の多くは、今迄ワクチンにより影をひそめてきたわけですが、これ程多くの人達を疾病から救っているにも拘らず、このような記事は殆んどお目にかかった事

戦ひの貧しき日々を經し我ら今日に足らはず
明日を欲りすも

ことしまた送り火焚きて精霊を流さむとする
に川は没れぬ

天保の飢饉をおもふ大塩もかかる冷夏の畿内に
起ちし

我が前に人あり我ののちもあり貧しきかなや
我のある位置

それとなく人の心をのぞき見る気配に立つか
この秋の風

歩み来し道じぐぎぐに続きるむ風に頭をあげ
振り返らざる

(旧作より) 「新月」同人

がありません。臨床治療により一人の運の良い人を助けた事が美談的に報じられることはしばしばあります。

予防接種の如き集団の健康向上は、全ての人を完全に疾病から守ることは出来ないのです。一対一の治療ですら誤診があり、治療の失敗があるわけです。集団予防である予防接種では、当然事故の可能性は否定出来ません。しかしその事故の可能性は、一般治療の何

このように考えると、情報公害

は医学の面でも、かなりの健康障害を引き起すと考えられます。この情報公害を正しく批判、評価し、一般人の知識を正常な方向へと矯正しうるこの公害対策が必要なのではないかと考えている昨今です。

(兵庫医大助教授)

昭和56年度
地区リーダー一覧

- 〔神戸市〕▽東灘区△魚崎茂子 (S10・理) 内山美智子 (S20・理) ▽灘区△津野貞子 (S8・家) 山下知子 (S39・理) ▽中央区△横山しづ子 (S31・文) ▽兵庫区△上田ユクエ (S4・文) ▽北区△小田清子 (S10・家) ▽長田区△郷美美枝 (S8・理) ▽須磨区△近藤房子 (S6・文) 八木静子 (S9・文) ▽垂水区△田中菊枝 (S9・理) 曾谷愛子 (S12・家) 竹田喜代子 (S22・臨)
- 〔明石市〕立石睦子 (S9・文) 茶谷万寿代 (S19・家)
- 〔芦屋市〕橋爪よし子 (S9・理) 安達英子 (S18・文)
- 〔尼崎市〕佐藤すなほ (S19・家) 中野久子 (S29・理) 真淵瑤子 (S33・文)
- 幼 鈴木久子 (S37・家)
- 〔伊丹市〕松本佳代子 (S44・文)
- 〔西宮市〕谷沢郁子 (S20・文) 木本英子 (S23・家)
- 〔三木市〕竹崎美佐保 (S18・文)

姑	学	講	座	
		見	聞	記

清水 百世

(昭40・文史)

「姑さん集まれ!」という呼びかけが、西宮市浜脇公民館と「親業訓練」の八尾インストラクター(親業訓練協会理事)によってなされ、今春、姑学講座が開かれた。親業訓練はもともと親子関係をよくするために、アメリカの臨床心理学者トーマス・ゴードン博士によって創案されたもので、心理療法のアクティブ・リスニングや教育学者ジョン・デューイの問題解決の理論などが巧みに導入され、体験から理論化へ(感情から知的理解へ)とプログラムが編まれている。日本では一年前に「親業訓練協会」が設立され、すでに1700名が訓練を受けている。同時に、日本化という課題の研究もすすめられ、その一つとして、日本特有の嫁姑関係の改善に応用できるのではないだろうか、この姑学講座は開かれた。

小4の長男を筆頭に3人の息子の前では、8年間の教職経験もどこへやら、つい感情的になってしまう私が、親業に出会って1年余り、親自身が自律できることの重要さと難しさを痛感している。しかし、母親が自律的な親になるのに、夫や姑との関係が大きく影響している場合が多い。長男の嫁として、三人の息子の母親として、私自身にかかわる問題でもあるので、早速、1週3時間計8回の講座を見学させてもらった。

受講生は西宮在住の41名で、午前、午後の2クラスが編成された。年齢層は32才から73才にわたったが、40~50代が中心で、姑予備軍の参加も多く、関心の深さがうかがわれた。今までの会合では、嫁の立場の人ばかり、或いは姑の立場の人ばかりの集まりで、相手の悪口をいい、慰めあって終っていたが、今回の講座では、互いの層の考え方や感じ方を伝えあうことができた。「なるほどお嫁さんはそんなことを考えるのか」「お姑さんはそんなつもりで言うてはってんな。誤解してたわ」という会話が度々なされた。

講座は親業訓練のプログラムを基礎にして、主に能動的な聞き方(相手が問題をかかえたときの聞き方

で、相手の感情や気持ちをフィードバックする方法)、私メッセージ(自分が問題をかかえたとき、相手の感情を損ねることなく自分の気持ちを伝える方法)、価値観の見直しが学習された。初回はインストラクターの存在さえ無視して、グループ討論(おしゃべり)に熱中していたが、回が進むにつれて私語する人、他人の話の横取りする人もほとんどなくなり、メンバーの発言を尊重できるようになっていった。また、これまでは他の人(嫁や姑)との関係をよくしたいと自分の周囲に関心が向いていたが、娘や息子にずっと悪い言い方をしていたなど、自分を振り返る心の余裕が出てきた。そして、自分が勉強しているのだから、自分から相手に交っていかうという思いが、嫁姑双方から出てきた。精神神経科へ医者通いをしていた人が、「薬を飲むのをやめました。これから第三の人生です」と報告し、またボランティアで身体障害者の施設へ行くことを決心した人もあった。息子を嫁にとられたときびしがっていた姑たちが、子育てに代る自分の生きがいを見つけはじめた。

これまで嫁姑関係をよくするのに、夫であり、息子である男性が緩衝の役割を果たしてきた。今回の姑学講座はこれにとって代ろうとする試みであったが、八週間の訓練の結果には予想以上の効果が表われてきたように思う。初回と最終回に実施したアンケートによると「嫁姑間で対立が生じた時どのように解決しているか」という問いで、「がまんをしている」は初回14名、最終回1名、「いろいろ工夫をしたり心のもち方が変わったので、対立や悩みがなくなった」20名、他に夫婦の会話がはずみ円満になった、価値観の違いを心で認識することができたなど、自分自身の変化を認めた人が27名あった。講座終了1ヶ月後に開かれた会合には20名参加したが、明るいきざっぱりした服装やヘアースタイルの変化、大声ではっきり話すなどの変化がみられ、若返った印象であった。



佐保会兵庫支部の皆さまには、いかがおすごしでございましたか。

さて、私は、この四月から五月にかけて何回か新聞記者のインタビューを受ける羽目になりました。そして、その応対などがやつとすみ、ほっと一息したのも束の間、今度は身内である同期の悪友？貴田さんから「支部だよりに何か書くよう」と、まことにありがたい依頼を受けたのです。一か月たち、悪友？の声が再び受話器から流れてきました。「原稿がまだ届いてないわよ」とせつつかれた次第です。

どうやらこのような状態におかれねばならぬ理由はと申せば、「県立高等学校普通科の教頭に女性として初めてなった」と言うことのようにです。「教頭がたまたま女性であった」に過ぎないだけであるのに「女性教頭」と、女性の上に付加されるわけです。男性の場合は決して男性校長とか男性教頭とは言わないのに………。正直いって何んとも言いようのない気持ちです。教頭が女性の場合と男性の場合で仕事異なるわけでもなく、男性の多い社会での管理職として、仕事に全力をあげて取り組んでおります。ただ、受け

取る側の男性、そして、女性がどう感じているのか知るよしもないのですが、私としては、男性の中でシゴかれてきましたので、別に、あまり意識したことはありません。

大学を昭和二十九年に卒業してから、私立、県立の高等学校教師としての道を歩み、五十二年四月、県教育委員会高校教育課指導主事となり（悪友？の後をバ

ため、知っていた先生はただ一人だけでありました。学閥、派閥、腹心の友も全くなき実にすっきりした形でゼロからのスタートを切ったわけです。

しかし、反面、情報がキャッチしにくいということもあります。校内には各種委員会が九つあり、このすべてに出席するわけです。会議のない日の放課後はトレーニングパンツに着替え、グラ

つきに、これまで経験してきた仕事を痛切に感じたことの一端を述べさせていただきます。行政では、時間内と時間外、夜のけじめがなかなかつきにく

も夜も、いわば仕事の一環をなしている、管理職は通常その中を働かなくてはなりません。勤務時間内におけるデスクワークだけでは勤めができたとはいえないの

仕事を通して思うこと

飛鳥光恵（昭29・家住）

トンタッチ）、二年七か月後の五

十四年十一月には、行政のまった

約千四百、教職員七十四名という

ド、体育館、格技室、特別教室など、練習している運動部や文化部をみてまわります。と、そこで生徒と先生方のかかわりや特技も発見したりし、自分の目で見、足を運んで得た確かなデータを、私というミニコンピューターに入れていくのも仕事の一つといえます。女性としての長所を仕事に生かしながら、厳しさの中に人間的な温みのある学校づくりに役立つことが出来たらと願っております。

私が接することのできた職場内外の男性については、環境変化への適応行動力を持ち、情報収集と先行価値を見出す企画発想力、創造的思考による洞察に基づいた決断力、さらに仕事に対する執念、指導力、説得力、社交性を身につけ、日常生活の中から絶えず視野を広め、柔軟な思考ができるよう自己啓発意欲に燃えていらっしやることとです。

職業人としての女性については、右に述べたような方もいらっしゃると思いますが数は少なかったように思います。一般的に言って、職場の花的なコースを選ぶ場合「花」にもピンからキリまであるように、「あだ花」でなく、さわやかで立派な花を咲かせるようにしていただきたい。勿論プロコースをめざすなら、男女を超えた仕事に対する根性をもって、職場の実力者であっていただきたい。「楽しみは月給が上がること」だけで、仕事に情熱も意欲もなく、スルマ湯にひたり、やる気のない職員（社員）の存在は、職場の雰囲気をおこわしてしまうことになるわけです。

家庭にあっても、自分に忠実に真剣に生きるには、努力がいる点ではまったく同じだと思えます。支部会員の皆さま、それぞれの道をいま一度ふり返り、たった一度の人生をできるだけ充実させ、悔少なく送ろうではありませんか。

末筆になりましたが、最も苦しかった時代に私を励まし続けて下さいました大先輩の印部さん、上田ユクエ、宮田ヨシ子の諸姉に深く感謝申し上げます。

＊ ＊ ＊

翔んでる女、キャリアウーマンという言葉は、好きではありません。どちらかといったら、地に根をはった女性が好きです。

大学を卒業して四年五か月がすぎました。私は、学生時代、職業についても三か月、いえ三日ともたないのではないかと思っていました、現在の職業が、私の性にあっているのかまだ続いています。

私が、勤務しているのは、労働省

また、この役所に勤務したおかげで、女性の生き方等について、いろいろ考えさせられます。

そして今、一番感じていることは、現代社会は、男性にとつては、職業をもち家庭をもって生きていくことは、あたりまえのことであるけれど、女性も同じことを望んだ場合、なかなかタイヘンだということです。

婦人少年室への相談の電話の中に

女性の生き方

平出 和子 思

(昭52・文教)



くりむかえ、また毎日の家庭内の事柄もやっついて、ほんとうに不満に思います」等の意見もきかれます。

そのほかに、共働きを続けながら子を生み育てあげた、キャリア20年、30年といったオオアネゴ的女性達から、聞くも涙、語るも涙(彼女達、タブンに感傷にひたって、大風呂敷をひろげているのかもしれないけれど)の苦労話を聞くにつけても、私は、職業と家庭の両者を手に

た。四人とも教師なので、労働条件も出産後も働き続けられるように整備されているということもあります

が、でも女性だからということでは、利に甘えるのではなく、職業意識をもち、また家庭内のことでもスピーディにそして合理的に処理している様子に感心しました。

そして彼女達の、地に根をはった、さわやかであってそれでいて、ただかさもあわせもった生き方をみて、私もそうありたいな一と思っっています。

ある化粧品会社のコマーシャルは、ないけれど、80年代は女性の時代なのだそう。そして1981年は、国連婦人の10年の後半期の第1年めです。国の内外でも女性に関して種々な事柄がもてはやされるとありますが、私は表面のかつこよさにまだわされないうで、地に根ざした生き方を探していきたいと思っ

(大阪婦人少年室勤務)

婦人少年局の地方出先機関で大阪婦人少年室。名称は仰々しいけれど扱っているのは、働く婦人のこと、勤労青少年のこと、それに婦人の地位向上に関係したことです。また役所といつても非常勤職員を含めて12名という小さな役所です。だから、組織というよりは、ある意味ではひとり親的な面もあるので、私のような組織の人になりきれないタイプには、あっているのかもしれない。

も「私は、出産後も働き続けたいと思、産前休暇までガンバッテ勤務を続けてきたけれど、会社の上司から、子供は自分の手で育てた方がよいのではないかと言われ退職しなければならぬような状況になって悩んでいる」等の相談もあります。また、「私は、共働きをしています。夫は、結婚時、家事等にも協力するといったのに、全然協力的ではありません。私一人、子供の保育所のお

入れる勇気がなく、まだ独身なのですが、今年の夏、大学時代の同級生と会う機会があり、ちょっと考えが変わりました。

といいますのは、彼女達六人のうち四人は、結婚しており一児の母ですが、もちろん職業も続けています。そして現在の生活のリズムも軌道に乗ってきたので、こんどは、レインボーママ(二児の母)を目標にしているといわれています。



役員を去るに当って

近藤 房子 (昭6・文)

支部の仕事は適当に後進に譲り、若い方々の活躍に俟つ事は、故・小泉ハツセ先生が自ら示された伝統でございます。支部または本部役員として今日まで残りました私たち、上田ユクエ、郷美美枝、田中菊枝、立石睦子姉と共に、昭和一桁組は退

くことになりました。

戦後の混乱期以来、すでにお送りした、諸先輩方のすばらしい御力や、また学術研究、その他諸方面に立派なご成果をあげられた方々のご発表に、幾度深い感銘を受けました事か。十幾年ぶりに帰神し、再就職の無力

な私に、とにかく佐保会は大きな支えでございました。そして今もなお、厚い友情に恵まれて誠に幸せだと感謝いたして居ります。

一方、奈良の本部では、当時、唯一の財産だった西笹鉾の僅かな土地だけを元手に、短大創立の一大決意をされました。以来十有余年、通常の同窓会事業以外に、短大の諸問題が山積、他に東京会館再建も難問をかかえ、佐保会の歴史上、かつてなかった大変な時代だと思わ

れました。でも今や学部、学舎共に増設を重ねて充実し、その上、四つの附属幼稚園のある立派な佐保女子短大、及び社会福祉の老人ホーム佐保苑、今春よりは保育園まで経営する母体となったのでございます。

ものでございます。この間、私など評議員、理事として会議に出席するばかり、何のお役にも立てず、お恥かしい限りでございますが、せめて、諸先生方のあのご苦労の一端でもお知らせ出来たらと存じて居ります。

兵庫支部もまた、深い友愛と奉仕の精神に結ばれた、楽しい仲間の集りで運営されて居ります。今後も友情と協力の輪が一層ひろがり、頼もしい支部として発展を続けられますよう、お祈り致します。

山添 令子

(大学院文学研究科)

①尊敬する人 故・市川房枝氏

②愛読書 とくにありません。ただ、水上勉氏の一連の作品が好きでよく読みます。暗いトーンですが、人間への暖かさがしみじみと感じられるので。

③好きな言葉 臨機応変—
こうありたいと常々思っているのですが……。

④特技・趣味 趣味としてはまだ始めて一年弱ですが、すべてを忘れて集中できるといふ点で、茶道に大へんひかれています。
また、おいしいものを食べ

フレッシュさんに
ちょっと
打診

56年3月卒業の新入会員五名の方に、月並みながら五問ずつアンケートしてみました。手渡したり郵送したり。しかし手応えがあったのはこれだけ。佐保会員も筆不精になったのでしょうか、青春謳歌で多忙なのでしょう。

ることも大好き。食欲はすべての活力の基礎ではないでしょうか。

⑤自己PR 良くも悪くも柔軟性があることです。好奇心が強く、まだまだ何でも吸収してやろうという気持ちだけは、持ち続けています。よろしくご指導ください。
(灘神戸生活協同組合勤務)

岸田 夏美

(理学部化学科)

①尊敬する人 磯村尚徳

②愛読書 遠藤周作、狐狸庵先生との出会いは「ぐうたらシリーズ」でした。次に「ただいま浪人」等の小説を読み、また「白い人」等

られる遠藤周作の宗教からくるものに感動した。純文学からユニークなエッセイ集までいろいろな分野の小説を存分に書ける小説家としてすばらしいと思う。

③好きな言葉
いつも心に太陽を、
くちびるには歌を、

④趣味 音楽鑑賞、ピアノ
卓球

特技 場所を選ばずどこでも眠れること。

⑤自己PR いつも眠っている様だからかわれていきます。おっとりした性格と、小さくてたれている目のせいでしよう。教員になって4か月目、生徒といっしょに前進あるのみ、一生懸命がんばる

矢野 恭子

(文学部英語英米文学科)

①尊敬する人 マザー・テレサ

②愛読書 トルストイ「復活」 理想と現実のはざまに悩む人間の姿がよく表れているから

③好きな言葉 「我が道を行く」

④特技・趣味 テニス、レコード鑑賞

⑤自己PR 他人の良い点を素直に認め、それを自分に吸収しようとする
(兵庫県立有馬高校勤務)

遺言のすすめ

(昭18・文 金丸寿子姉談)

最近では日本でも遺言をする人が増えてきている。遺言がないと、遺産は法律できめられた通りに共同均分相続されてしまう。遺言こそ、自分の自由意思で自分の財産を処分しうる最後のチャンスというわけ。また相続人同士の争いを防ぐ意味でも、遺言書を作っておくことをすすめる。

とくに子供のない夫婦の場合は、必ず夫が遺言書を作成しておかないと、夫の死後、妻は夫の遺産全部を相続できないことになる。夫の両親が存命中なら、妻の相続分は三分の二だけになり、夫の親がいなくても夫の兄弟姉妹がいる時は、妻の相続分は四分の三で、残りの四分の一は夫の兄弟姉妹へいってしまう。夫が全遺産を妻に相続させるといふ遺言書を作っておきさえすれば、妻には有利になる。

また、嫁には夫の両親の遺産については相続権が全くないので、夫が先に死亡し、義

父母の面倒を長い間みてあげた嫁や、先妻の子供がいる複雑な家庭へ入った後妻の場合なども、遺言書がないと、相続の権利を守りにくい。

遺言の範囲は①財産処分②婚外子の死後認知③相続人の廃除、取り消し④未成年者の後見人の指定など。また相続人に法定でない遺産分配を指定したい時や、遺産分割の指定も、遺言の方式によって法律上の効果が発生する。

遺言作成には③公正証書によるもの(公証役場で作成)⑥自筆による遺言証書(全文と日付、氏名を自筆し、署名と捺印)⑦秘密証書(署名のみ自筆。封印したまま公証役場へ持参)の方法がある。

極端な遺言によって、全財産を特定の人に遺贈したり、寄付してしまった場合、相続人が権利侵害を知ってから一年以内に滅殺請求をすると、相続財産の半分は取り戻せるが、これを遺留分という。



支部事務局だより

◇行事(昭55・10・56・7末)

▼本部会報、支部だより第4号、名簿を発送(54・11・24)内二四五通は手渡す

▼支部だより編集委員の御苦勞様会(増田先生、表彰者のお祝いを兼ねて)(56・1・6) 於竹葉亭、出席21名

▼支部総会・議事、県下の調停委員有志によるお話(56・6・14) 於パーグ出席64名(うち新卒3名) 役員改選により若返りました。

◇お慶び

▼客員・増田勲先生 勲四等瑞宝章 (55・11) を受章
▼横田スエ姉 (昭2・文) 藍綬褒章 (55・11) を受章

▼出口八重子姉(昭16・文) 親和学園教頭(56・4)
▼飛鳥光恵姉(昭29・家) 県立加古川北高校教頭(56・4)

▼内匠慶子姉(昭18・保) 兵庫県幼稚園会々々長(56・4)

◇グループ、もより会

▼睦会(満六十歳以上の方々)

(55・10・30) 於楽珍 出席35名

▼もより会が北区、長田区、東灘区、尼崎地区、姫路地区で開かれました

◇新入会員

56年3月卒の新入会員23名

計報

▼真鍋琴子姉(昭11・文) 56年2月16日

お知らせ

高校時間講師お世話します

飛鳥光恵姉(昭29・家住)は五十六年四月一日付で、兵庫県生活課副課長から県立加古川北高校教頭に転出されましたが「佐保会員で高等学校の時間講師をご希望の方があればお世話します」とのお申し出がありました。

ご希望の方は、履歴書と条件(出勤可能な曜日、時間、通勤距離など)を書いて、左記あてお送り下さい。教科、科目は問いませんが、お申し込み後すぐに採用とは限らないようですのでお含みおき願います。

▼連絡先 673 明石市茶園町三二二二九一

◎〇七八一九一三三三〇九

飛鳥 光恵

編集後記

「まア、大物ぞろいネ」——編集スタッフが決まって事務局へ報告したさい、こう冷やかされました。なるほどなるほど、われら四人、いずれも熟年、中年。体重はもとより戦中・戦後を耐えぬいた人生体験は決して軽いとはいえません。その重量を利して、尊敬する大先輩から頼もしい同年配、そして、いとし後輩までに体当り。ご無理をお願いして出来上がったのがこの第5号。皆様の快い御協力に心よりお礼申し上げます。

今年には国際障害者年、ポルトピア、国連婦人の10年の後半期と、まことに意義深い年。そうした色彩を誌面に盛りこみたいと意図しました。それぞれの御立場からの鋭い、誠実な御発言を頂きますと、このように充実した一冊が生まれました。表紙は、田中菊枝姉の御尽力によりまして、林利三郎画伯の作品を頂きました。ポルトピアホテル13階からの展望です。いつもながらの御厚意、ありがとうございます。

編集 谷沢郁子 貴田康乃
委員 中野久子 名村喜久江